第 21 回西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会 議事録

1. 概要

日 時：2018 年 3 月 27 日（水） 午後 2 時～午後 4 時

場 所：グリーンルーム（あおぞらビル 3F）

出席者：国土交通省近畿地方整備局道路部：計画調整課 古賀課長、路政課 釜矢課長他（5 人）

国土交通省大阪国道事務所：福本事業対策官他（3 人）

阪神高速道路株式会社：道路環境・景観課 山崎課長、大阪管理局総務・管理部環境対策課森課長他（4 人）

原告団：森脇、上田、岡崎、池永他（18 人）

弁護団：津留崎、村松、早川

あおぞら財団：藤江、谷内、林、鎗山

参加者数：37 人

2. 資料

- ・国土交通省：国土交通省・阪神高速道路：資料①大阪市西淀川区 大気の状態、資料②国道 43 号 大型車交通量の推移、資料③ 国道 2 号歌島橋交差点交通量調査結果、資料④環境ロードプライシング及びエコドライブ現地広報 横断幕設置（H29）、資料⑤歌島橋交差点地下歩道案内板の改善（中期的対策）
- ・阪神高速道路株式会社：料金改定による交通影響、環境ロードプライシング広報活動（経過報告）
- ・原告からの提案（西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会資料）

3. 原告団団長（森脇氏）のあいさつ

道路連絡会は 21 回である。子供でいえば二十歳をすぎた。公害対策、まちづくりいろんなことを議論してきた。おかげさまで大気はきれいになった。あとは、まだ下限値より下をどうやって達成するかというのが課題になる。思いをもった政策を出して欲しい。今日すぐには成果がでなくても、成果が出るような政策をしてほしい。

歌島橋交差点は周辺の環境が変わりつつある。この問題を相談しながら、どうまとめていくかというのをすすめて行って欲しい。

道路連絡会を開催しているのは、西淀川区以外では東京、川崎である。尼崎は道路連絡会での意見交換をいったん終了し、名古屋も終了した。西淀川が道路連絡会を最初に始めた。土地周辺のまちづくりを行うために、連絡会という形をとった。

様々な対策はされているが、まちづくりはあまりすすんでいない。西淀川区の地域のまちづくりはがんばっていると思う。まちづくりの視点をもって政策を進めて行ってほしい。

4. 被害者からの訴え

上田

会長も言ったが、道路連絡会は重ねて 21 回。大気汚染公害が人の健康や暮らしにどういう影響を与えるのか、それを共有していくということが大事だと考えている。今日は 二人の患者から、自分のこと、自分の願いについて話してもらおう。

岡崎

西淀川にきて今年で 45 年になる。40 年以上、この病とたたかっている。病気になった当初はどうして自分がこんな病気になるのかと思っていた。1 歳になった息子が同じ病気になるとは思わなかった。発作がおきて苦しくなるのは、夜 1 時から 4 時ごろである。子どもの顔が青ざめていく。自分も同じ状態で介抱しながら苦しんでいた。子どもと一緒に死のうと思ったこともある。19 年前は重積発作で仮死状態になり、そこから生き返り、今にいたっている。

大気は、数字の上でもよくなっている。薬もよくなってきたが、体調はよくならない。

老いにつれ、歌島橋交差点の地下道にもぐるのは不安である。横断歩道を元あった地上に戻してほしい。

池永

家族の話をしたい。娘と私はぜん息を患っている。大阪万博の年（1970年）に結婚し、娘は3歳からぜん息の発作が出るようになった。幼稚園には2年間在籍したが、半分くらいしか幼稚園にいけなかった。そうしている間に自分もぜん息になった。自分もぜん息になって、こんなにしんどいのか、つらい思いをしていたんだと初めてわかった。朝に夜中に、何回も繰り返し病院に行ったり、タクシーや旦那が運転するバイクに乗せてにしよど病院まで走った。子どもは、修学旅行に行けなかつたことが一番かわいそうだった。発作は10日ぐらい経つとおさまる。今日から学校に行っていいよと言われたが、子どもにかわいそうな思いをさせた。家族そろって修学旅行で行くはずだった場所をまわった。

私は未認定の患者である。生活のために一生懸命働いた。ぜん息の発作がありながらも、保育所で仕事をがんばった。その時に比べればよくなっているが、ぜん息は治らない。空気中のものは目にみえない。匂いとか風にとっても敏感になっている。小学校に公害の語り部をしているが、クラスに2,3人はぜん息の子がいる。友達が気をつけてあげてね、と伝えている。喘息の薬を飲みながら、今日までがんばっている。少しでも空気がよくなるように、よろしく願います。

釜矢（国土交通省近畿地方整備局路政課課長）

患者のみなさまの切実な話を確かにきいた。和解条項に基づいて、意見交換を行いたい。

5. 資料説明、原告からの提案

国土交通省、阪神高速道路株式会社からスライド、資料を用いて説明。

原告団を代表して藤江（あおぞら財団）からスライド、資料を用いて原告からの提案を説明。

6. 質疑応答

森脇

歌島橋交差点の地下道についてだが、区役所のほうに行く際に水が垂れている。杖をついていると、上から水が落ちてくると、避けるのが難しいので怖い。

福本（大阪国道事務所）

地下道の水漏れは、上から漏れている。地下水が浸みだしている。いろんなところも地下道があるが、どうしても水漏れが起きている。水みちを特定するのが非常に難しい。雫を上で受ける、注入で止めるという方法があるが、他のところから水が出てくることもある。要因を特定するのは、少し時間をいただきたい。

山下

歌島橋交差点を自転車で通行する際、エレベータで降りる。何台もエレベータを待つことがある。自転車を2台乗せたら、エレベータがいっぱいになる。時間がかかるから、遠回りをして区役所の方向に行くこともあり、不便である。

エレベータは、夏場は蒸し暑い。特になりにその前のエレベータは、気分が悪くなる時がある。

福本

夏場の蒸し暑さの対策は電力の関係で難しい。

森脇

歌島橋交差点の緑が小さい。元に戻すという約束だった。もっと緑を増やしてほしい。

上田

面積からいうと、階段とエレベータの分の緑が減っている。更新が難しいのかもしれないが、植栽についても追加的に補修してほしい。

福本

以前の状況も確認して、枯れているものに対しては対応したい。

村松

地下道、風がかなり強い。地下道の耐震はどうなっているのか？

福本

歌島橋交差点の耐震は考慮されている。

藤江

緑の面積は減っている。交差点なので、樹木によって見通しが悪くなるのは困るという議論があった。

福本

区役所側は大阪市の敷地になるが、他は大阪国道事務所の所有地である。

早川

植栽は、大気汚染改善の効果が大きい。植物があるだけで、NO₂を吸着したりなどで大気の状態を変える。

大気汚染の状況が改善しているのは良いことである。単体規制がきいているのは間違いない。

淀川断面の全体の交通量が増えている。環境ロードプライシングによって高速道路の料金が安くなったことで交通量が増えている。環境ロードプライシングを強化する方向。当面、この地域の高い汚染を改善するためには、湾岸線に逃がす。自動車交通量の総量が増えたのに、大気の状態がよくなっているのはなぜか。その要因を確かめるために、分析してほしい。

PM2.5は下がってきているが、日本の環境基準はそれほど厳しいものではない。WHOの基準はもっと低い。もっと低くしてほしい。

古賀（近畿地方整備局 計画調整課課長）

目的地が大阪ではなく、中京圏を目的地としている交通が増えている。宝塚付近が混んでいる。NEXCOの高速道路の整備は、交通の分散、工業立地という経済活性化の中で必要になる。臨海部の道路は飽和状態になっている。

淀川断面の道路の断面交通量が増えているが、大気は下がっている。これはなぜか。自動車の単体規制の効果が大きい。工場の排気ガスも従前より厳しく規制されるようになってきた。他には、船の排出ガスをなんとかできないかと考えている。船の排出ガスは基準が緩い。どういうふうに取り組んでいくかという答えは持っていないが、近畿地方整備局ができることについては取り組んでいきたい。

PM2.5の測定結果を出している。今年度の答申¹は、自動車の粉塵装置の規制を検討していかないといけないという内容であった。自動車メーカーが考えないといけない内容ではあり、技術革新がすすむだろう。PM2.5は複雑で、メカニズムがわからない。

上田

PM2.5は濃度から個数へとPM規制に向かっている。今のPM2.5の基準を見直していかないといけない。車をいかに減らすのか。車を人が生活しているところから遠くで通行するようにしてほしい。環境ロードプライシングは、湾岸線の通行料金が安くなったら転換するとういのが見えている。もっと力を入れていってはどうか。料金の差をもっとつけて誘導することを検討してほしい。

釜矢

東京の本省にも情報共有をさせてもらいたい。

上田

6月の全国公害総行動において、本省と話す場をもつ。隔靴搔痒の思いである。せっかく道路連絡会というこういう機会をもっているのだから、東京に情報を共有して、少しでも前にすすむように力をかけてほしい。

¹ 中央環境審議会大気環境部会 今後の自動車排出ガス低減対策のあり方「平成29年5月31日 今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について（第十三次答申）」

<http://www.env.go.jp/air/car/taisaku/index.html>

森脇

被害を訴える場をみなさんが聞く機会は少ないと思う。

解決できることがある。例えば歌島橋交差点の横断歩道をどうするかというのを話し合っしてほしい。はじめにあった横断歩道をとってしまった。

村松

環境ロードプライシングは、ひどい大気汚染を緊急的にどうするか、とりあえず湾岸線に大型車が移行してほしいということで実施している。最終的には住民が健康であることが大事である。

釜矢

交通も大型トラックだけではない。貨物も鉄道もある。大型車は増えているが、ドライバーの数は頭打ちである。自動運転という新しい技術も出てきている。

村松

患者さんは遠くに移動するわけではなく、地域で生活している。地域の環境の改善が目に見えて、なかなかすすまない。地域の交通は遅れている。道路や交通をめぐるインフラがまちづくりになる。

林

国交省のみなさんには、研修で西淀川公害、現地に担当官にきてもらい感謝している。去年度、出来島小学の測定器に看板をつけてもらい、説明がしやすくなった。

川崎市国道 15 号に立派な公害裁判の記念碑がある²。東京には、この装置はこういうものだという説明をする看板が中央分離帯にある。地域の人々が道路環境の取組みを知らない。情報が共有されない。原告側からの提案にもあったが、そういうサインを作ってもらいたい。国交省の方だけで作るとわかりづらいものになるので、一緒に考えて作りたい。

城東鶴見 藤本

西淀川は大気汚染公害訴訟で勝ち、環境がよくなっている。いろんな要求を出している。

阪神高速道路の淀川左岸線の延伸工事が行われる。ボーリング調査が 5 箇所で行っているが、住民は知らされていない。住民への説明会が不十分ではないか。安全であることが大事であり、基本。作るからには良いものを作ってほしい。住民の意見を聞いてもらえる場がほしい。

釜矢

国交省は PR がすごく下手である。福井の大雪の時も、昼夜問わず国交省も対策を行っていたが、自衛隊ばかりが目立っていた。

道路環境の改善が住民に十分に伝わっていない。私の経験でいうと、国交省が地元に入っても相手にされない。地元の自治体に間に入っている。意見があったということは担当部署に伝えたい。

藤江

道路環境改善に向けて、結論が出ていない。宿題が大きくなったように思う。年度があけてから、どうやっていくのかというのを相談させてほしい。こういう場で報告できるようにお互いがんばりましょう。

森脇

積極的に国が動いてくれないと、原告側は道路環境改善の提案だけして 20 年経ってしまう。生きている間に、新しいものができたというのが見えるようにしてほしい。

上田

患者は、孫子の代にはきれいな空気を手渡したいという思いでやっている。

以上

² 国道 15 号沿い新川バス交差点貝塚 1 丁目角にある記念碑。記念碑には川崎大気汚染訴訟および道路環境整備の経緯が書かれている。